社会医療法人孝仁会　釧路孝仁会記念病院
勤務医負担軽減計画　2026年度目標

部署名		項目	取り組み	目標	
看護部		医師と看護師	看護師によるIC内容の記録	医師に代わり、意思決定場面におけるIC内容と患者・家族の反応を明確に記録する。	
			WOCによる褥瘡対策委員会活動の継続・促進	医師と協働しながら、回診指示の継続処置の確認を認定看護師中心に行う。	
リハビリテーション部		リハビリテーション実施計画書の説明と交付	医師の確認の下、漏れなく計画書を交付する	算定漏れが無いように医師と協働して、計画書の説明および交付事務を行うことができる 発行全数の取得率95%	
		各種評価結果の報告	必要な検査・評価内容をまとめて報告する	運動機能・摂食嚥下機能・高次脳機能・日常生活動作能力・就労能力について早期に評価し、医師に報告することができ	
診療放射線部		読影の補助、画像所見の報告	急を要する画像所見や追加の検査が必要と思われる場合、医師へ連絡し速やかな対応を図る	検査時または終了時に速やかに医師へ報告　密に連絡できる体制作り　(目標　画像所見報告件数：240件/年)	
		検査指示内容への疑義照会	医師への連絡を密にし検査内容への疑義照会を積極的に行い、場合によっては検査内容の提案も行	医師への密な報告、疑義照会を行い検査の効率化、インシデントの減少に繋げる（目標　インシデント件数：0件）	
薬剤部		病棟業務の推進	病棟に薬剤師を配置し、薬剤管理指導業務業務とともに、病棟薬剤業務を維持し、医師の処方支援、プロトコールに基づく薬物療法の整備・実施、適切な情報提供等を通じて薬物療法の支援を継	継続実施	
		持参薬の安全使用について質的向上	持参薬を鑑別し、代替薬を薬剤部より主治医に提案する。	継続実施	
		チーム医療への積極的な関わり	薬剤師の専門性を多職種と共有しながら薬物療法に積極的に参画し、医薬品の適正使用に務める。	継続実施	
臨床検査部		輸血管理体制	24時間体制で輸血製剤管理を行い、早期に輸血が実施されるように対応する。	緊急手術や治療に対して安全な適合製剤を最短で輸血まで整える。治療輸血の場合60～90分以内（血液型を考慮する）	
		夜勤体制での病棟採血結果の早期確定	病棟回診前の早朝検体検査結果の確定と電子カルテへの送信、緊急値の報告	病棟から提出された早朝の採血検体は、朝9時までにの検査を終了し電子カルテに結果を報告、回診に繋げる	
		緊急生理検査実施	時間外の緊急検査（超音波検査・術中神経モニタリング）の即時対応	緊急時の超音波検査実施と報告（心エコーであれば、検査から報告まで20分以内）、必要な処置や手術対応へ繋げる。	
		術中の神経モニタリングの針電極の装着と脱着	（タスク・シフトシェアの履修を完了した）臨床検査技師が手術時の針電極の装着と脱着を担当する	円滑な手術前準備と退室を目指す（医師、手術室、臨床検査技師の連携）	
臨床工学科		人工呼吸器管理 カテーテル業務におけるセカンドオペレーターの役割	臨床工学技士が毎朝1回ラウンドを行い、人工呼吸器の設定の確認や安全管理を行う タスクシフトに伴い、カテーテル業務でのセカンド業務ができるCEを増やす	呼吸器の設定の確認や患者の状態を把握し、異常時にDrへ報告、設定変更の提案ができる 勤務医の人員、業務負担軽減の為に、臨床工学技士がカテーテル業務に積極的に関与すること。	
事務部		診察や検査の予約	電話窓口での予約取得・変更等。必要に応じて医師に確認。	必要な知識の習得し、スムーズな対応を心がける。	
		病院車両による患者送迎	出動から病院到着までスムーズに対応し、それに要する時間の短縮に務める.	日常より整備を適切に行い安全運転管理に務める、目標事故0件	
患者支援総合センター	地域連携室	他医療機関との連携	外来及び入院予約、転院調整に必要な情報取込と伝達 メディネットたんちょう利用のサポート 救急搬送・診療に必要な患者様の情報を収集	救急搬送、受診、入院、転院調整等の情報交換などがスムーズにおこなえるよう他医療機関との連携を強化する。	
	入退院支援室 医療相談室	退院支援 書類作成	院内、関係機関との連携により退院支援を円滑に行う 医師の指示の下、速やかに書類を作成する	入退院支援加算月平均１５０件、在宅復帰、施設入所、転院に係わる書類の作成と連携を滞りなく行う。 制度に必要な書類を速やかに作成できるよう補助する	
ﾄﾞｸﾀｰｽﾞｸﾗｰｸ		1.業務	1.医師とクラークで適切な業務分担ができているかを確認し整備する。	1.需要と共有のバランスを整え、ドクターズクラークの専門性を適切に活かし医師の負担軽減に繋げる	
		2.環境	2.医師を含めた、チーム内のコミュニケーションを深め、何でも話し会える関係を構築する	2.医師と「話す」事を大切に何でも伝え合いながらチーム力を高めていく。　毎月1回医師を含めたミ-ティングを行う	
託児所		育児中医師の児童の受け入れ	医師の産休、復帰時期などを確認し、産後休暇明け(最短8週後)からの受け入れを行う。	医局や医師と連携し、医師の児童の受け入れを確保できるよう、受け入れ態勢を整える。	
			利用していない医師の児童について、緊急時などに受け入れを行う。	安心して働けるよう、緊急時などに医師の児童の受け入れ、保育を行う。	
再生医療室		再生医療の説明の補助	患者への再生医療の説明をする際の資料作成などの補助を行う。	患者への再生医療の説明をする際の資料作成などの補助を行う。	
		新規提供計画の作成・届出の補助	論文等の探索、必要書類の作成補助を行う。	論文等の探索、必要書類の作成補助を行う。	
		定期報告資料の作成補助	患者情報取りまとめ、治療成績等のデータを解析し、資料作成の補助を行う。	患者情報の取りまとめ、治療成績等のデータを解析し、資料作成の補助を行う。	
医療情報室		システムの安定稼働	計画的なメンテナンス実施と最新技術の習得	各部署より連絡体制の整備、予備機の確保等。システムの自動監視技術など。	
		業務のIT化推進	事務処理のIT化のためのシステム開発	日常より医師の要望に対して、積極的に情報収集行う。	
中央病歴管理室		診療情報の提供	診療情報に関するデータ収集、統計、調査、管理	医師が必要とする診療情報等を迅速、的確に提供する。	
栄養科		特別治療食	血液検査や既往歴を確認し、医師指示食種に変更の必要性がある場合は食種変更を提案する	栄養管理計画書作成時に十分なアセスメントを行う。疾病・栄養に関する正しい知識を身に着け根拠のある食事内容の提	
		栄養指導	血液検査や既往歴等に沿い、退院後の再発予防となるよう実践的な栄養指導が行えるよう努める。	栄養管理計画書作成時に十分なアセスメントを行う。	